

なかゆくい

Series 5

伝統工芸とのふれあい

経済産業部



京都が17、新潟は15、東京と沖縄は13、大分が1、北海道には無く、全国では211。これは何を表す数字か、ご存じの方はいませんか？

正解は平成21年4月現在での経済産業省が指定する「伝統的工芸品の数」です。

一般的に伝統工芸などと呼ばれることの多い伝統的工芸品ですが、「工芸品の特長となっている原材料や技術・技法の主要な部分が今日まで継承されていて、さらに、その持ち味を維持しながらも、産業環境に適するように改良を加えたり、時代の需要に即した製品作りがされている」ものであり、次の要件を兼ね備えたものであると認められたものを経済産業省が指定いたします。

1. 主として日常生活で使われるもの
2. 製造過程の主要部分が手作り
3. 伝統的技術または技法によって製造
4. 伝統的に使用されてきた原材料
5. 一定の地域で産地を形成

ここで、伝統的…とありますが、およそ100年間以上の「継続」を意味し、産地形成については、10企業以上または30人以上が想定されているため、先の大戦で多くの犠牲者を出した沖縄県においては、技術（者）が途絶えてしまったものもあり、伝統的工芸品としての指定を受けられないものも多くあるようです。



壺屋のチブルシーサー

これとは別に、沖縄県独自に定めた「県伝統工芸製品」もありますが、平成21年11月現在、24品目が指定されており、1998年以来11年振りに、「知花織」が指定に向け動いています。さて、これらの伝統的工芸品や伝統工芸製品は、なかなか身近なところで接する機会が少ない方もいらっしゃる

（用語）
県伝統工芸製品県伝統工芸産業振興条例に基づき県が指定する。

指定要件は

- (1) 日常生活で使用
- (2) 製造過程の主要部分が手工業的
- (3) おおむね80年以上の歴史を有する技術、技法で製造
- (4) 伝統的な原材料を使用
- (5) 一定地域の少数で製造すること。

と思いますが、今年度も、年に一度の「沖縄工芸ふれあい広場」（11月21日～22日）、「壺屋陶器まつり」（11月20日～23日）が、那覇市ぶんかテンブス館、壺屋小学校を会場に、開催されました。

工芸ふれあい広場
オープニング
セレモニー

色鮮やかな
琉球ガラス





赤が鮮やかな壺屋焼の作品

「沖縄の心 手技の世界！」
 をテーマに開催された沖縄工芸ふれあい広場は、今回で16回を数え、今回は那覇市のだ真ん中「那覇市ぶんかテンブス館」を会場に様々な催しが行われました。
 琉球漆器、琉球びんがたや首里織・琉球絣等の伝統的な染め織りの他、豊見城市ウージ染め、琉球ガラス等、戦後に誕生した工芸品の展示や、体験コーナーも設けられ、観光客の方や親子連れの方でにぎわいました。
 また、地域との連携を考え、与儀公園から壺屋小学校に会場を移した「壺屋陶器まつり」は、今回で第30回となりました。



しっかりとした面構えのシーサー

昨年は、後半雨に泣かされましたが、今年は4日間にわたり好天気で、大勢のお客様でにぎわいました。
 平成18年度からの開催を壺屋小学校で行っている同イベントですが、今年も多くの壺屋焼ファンが押しかけ、通常より2〜3割安くなった商品を吟味し、お気に入りの一品を持ち帰る姿が多く見られました。恒例のオークションでは、30点近い数の陶器が出品され、地元の方々に交じって、外国人や本土の方々も大きな声で値をつけるなど、安く落札出来た方、今年も落とせなかった方、悲喜こもごものイベントとなりました。

那覇市ぶんかテンブス館 展示・イベント開催状況

4 階	<ul style="list-style-type: none"> ◆産地コーナー（宮古上布／八重山ミンサー＜竹富＞／読谷山花織・ミンサー／久米島紬／与那国織／豊見城市ウージ染め） ◆小規模団体コーナー（やまあい工房／八重山花織組合） ◆着付コーナー ◆ミニステージ
3 階	<ul style="list-style-type: none"> ◆産地コーナー（喜如嘉の芭蕉布／琉球絣／八重山上布・ミンサー＜石垣＞／琉球ガラス） ◆呈茶コーナー ◆工芸品と花展とのコラボレーションコーナー
2 階	<ul style="list-style-type: none"> ◆産地コーナー（首里織／琉球びんがた／琉球漆器） ◆体験コーナー（織物＜首里織／琉球絣／読谷山花織＞／陶器／びんがた／漆器） ◆コリドールミニイベントコーナー
1 階	◆1階広場ステージ（ラジオ出前放送／Live／琉球舞踊、ハワイアンフラ 等）
B1 階	地下有料駐車場

